

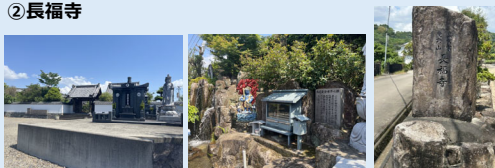
①菅原神社



田んぼの中にボツと建てられた大きな鳥居が出迎えてくれ、奥に進むと石で作られた橋と階段があった。所々欠けていて不安定な足場もあり、注意が必要である。階段を登りきると、左の写真の本殿があり周りは森に囲まれ、トトロの世界に迷い込んだかのようなだった。また、竹が倒れていたり、手すりがかびていたりして、あまり整備されていないように感じた。学問の神様である菅原道真が祀られている。近くの草薙には蛇がいたので注意！（有馬、中島）



②長福寺



集落の北西に位置している。内部は広く、整備されていた。室町時代に創立されたとあってか、中には豪華な装飾や石像などが見受けられた。また、本堂の裏の庭園には、高さ2.5メートルほどの滝や蓮の花が咲く池が存在する。水はきれいに透き通っており、小さな魚たちが泳いでいた。水のおかげで体感気温はグッと下がった。当地の「寺迫」という地名もこの長福寺にちなむものなのだろうか。訪問当時、境内に人は見受けられなかった。（西岡、中島）



都農町地域資源マップ 1 班

（西岡右京、有馬聖人、中島颯希、水谷愛優菜、松元優花）

③プール



時期のせいなのか水は茶色く汚れてたいた。使われていないのか？と思い、近くの農家さんに質問してみると、夏になると開放されており、子どもたちがよく遊んでいるようだ。地域の方が一体となって管理しているらしい。（中島）



⑥交差点



南北の歩道用信号がないため、歩行者は車に十分に注意して横断する必要がある。車通日も多く、特にトラックなどの大型車が多かったため、歩道を歩く際に帽子や日傘などが飛んで行って大変だった！周囲には横断歩道がなかなかなく、道を渡りたいときはこの交差点まで戻る必要があって少し大変だった。（水谷）



⑤寺迫公民館



周囲は住宅街だったため地域の行事ごとでは人が集まりやすそうところだった。駐車場は広く、人も多く集まれそうであった。ただ、この日は土曜日の昼間であったが人の姿は見られなかった。正面の掲示板には地域資源創成学部の先輩が作った都農町に関する新聞が掲載されていた。近くには地域福祉バスの停留所「寺迫公民館」がある。1日2本で平日のみの運行だったため、市内に比べると利用者はかなり少なそうであった。（水谷）



かぼちゃ農家さん



福岡出身で、奥さんの実家がある都農町に移住してきた。都農町の魅力として、自然が豊かであることを挙げている。普段は朝5時に起床して農作業を行っており、かぼちゃ栽培は近隣の川南町でも盛んであるという。農業ではほかの農家さんと協力しながら情報交換を行っており、地域内でのつながりが大切にされている。また、都農町は人口が少なく、お子さんが通う小学校も1学年1クラスしかない状況であるらしい。地域については、海が近いにもかかわらずビーチが少ないことや、昼間は特に人通りが少ないことを話されていた。一方で、地区ごとに夏まつりが開催され、月に1回ソフトボール大会も行われるなど、地域住民の交流の機会が多い。さらに、水路の管理や草刈りなどの作業は地区住民が協力して行っており、住民同士の結びつきが強い地域であることが分かった。（水谷）

トマト農家さん

都農町出身で長く農業に携わっている。トマトを育てることはもちろんのこと、ビニールハウスの管理で1年中忙しいそうだ。また、トマト栽培は「先生」から技術を学びながら始めたそう。都農町の良いところとして、津波の心配が少ないことを挙げている。また、長年この地域に住んでいるため、近所には知っている人が多く、困ったときには助け合う関係が築かれているという。さらに、70歳になった現在でも同級生とのつながりが続いており、人と人との結びつきが強い地域であると感じた。一方で、昔は農家同士の交流が盛んであったが、現在はそのような機会が減っていることを寂しく思っていた。また、都農町は公共交通機関が限られているため、生活するうえで車が欠かせないという。加えて、農業の後継者不足も深刻な問題となっており、将来への不安も感じている様子だった。（水谷、松元）



感想

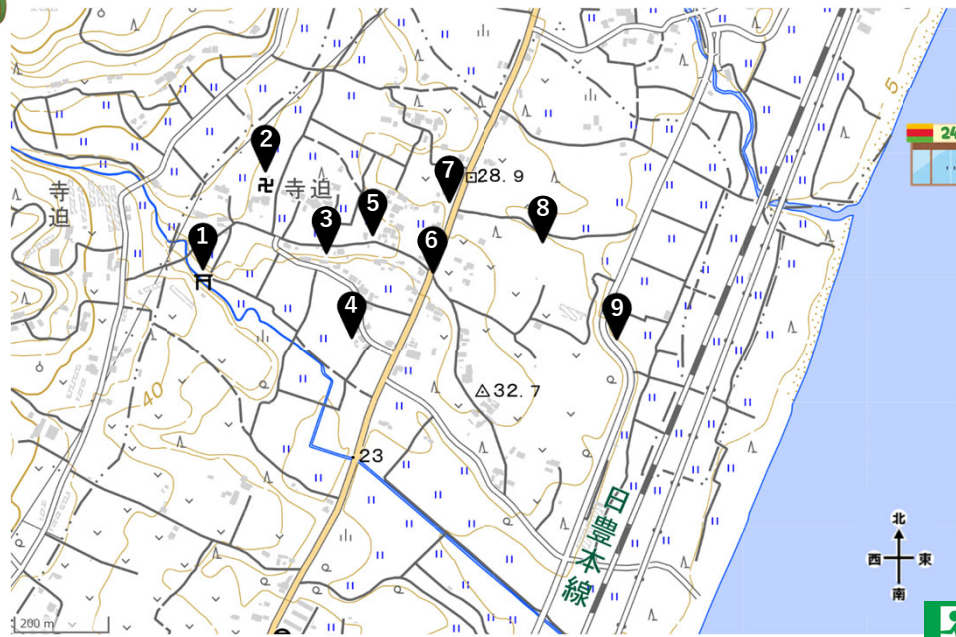
都農町は「自然豊かな町」として知られているが、実際に訪れてみると、その言葉以上の魅力を感じた。川の水音や風の音を間近で感じながら歩き、農作業をしている人々の姿を見たり話を聞いたりすることで、地域の暮らしをより身近に感じることができた。写真や資料だけでは伝わらないリアルな風景や空気に触れることができ、とてもわくわくした。また、自然と人々の生活が密接に結びついている様子が印象的であった。（水谷）

自然が豊かで町の人々も明るく取材に対応してくれて、実際に行ってみたいと分からない魅力がたくさん溢れている町だなと感じた。同時にバスや電車の本数が少なく移動には車が必須であり、車が運転できない人たちの移動が大変だと感じる場面があった。だが、町の人はそこまで不便さを感じているわけではなく、快適な生活を送っているのが印象的だった。（有馬）

インターネットで調べ理解するよりも、自分たちで実際にその土地に足を運ぶ大切さを改めて実感できた実習となった。緑が一面に広がる都農町の豊かな自然や地元の人々の温かさに触れることができた。同じ宮崎でも普段暮らししている地域とは違う魅力や景色にも気づき貴重な経験になった。機会があれば今回訪れた地域以外の場所にも訪れてみたいと感じた。（松元）

親世代の方にインタビューを行った際に、現代ではなかなか見られないような住民同士との結びつきの強さを実感した。一方で、同じ質問をシニア世代の方にするると、「昔はもっとすごかった」と以前と比べて交流が減っていることに寂しさを述べた。厳しい暑さの中でのフィールドワークだったが、いたるところに水が流れていたりおかげで、涼しさも感じられた。豊かな自然と町の人の温かさに触れることができた。（中島）

インターネットやアナログの資料ではわからないような地域住民同士のつながりや地域に根付いた思いなどを、実際に現地に足を運んで実習をすることにより知ることができた。また、自分たちの住む地域ではあまりないような地域管理のプールなど、自分の想像していなかった物を見ることができとても新鮮な体験だった。（西岡）



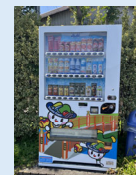
⑦コンビニ



都農町唯一のコンビニである、セブンイレブン都農寺迫店。15年以上の歴史を持ち地元で愛されている店である。交通量の多い国道10号線沿いにある。駐車場はとても広く出入りしやすいため、店舗を構えるには立地が良い場所であった。店舗の前には喫煙ベンチが設置されているのも特徴である。仕事の休憩時間に来ている社会人や日用品を買う地域の人々の姿が見られた。（松元）

④自動販売機

都農町のマスコットキャラクターである「つのびよん」がデザインされている。尾鈴山と矢研の滝をイメージした大きな帽子をかぶっており、いつも名産品であるトマトとブドウを乗せている。（中島）

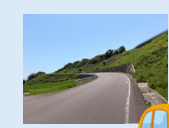


⑧津波避難場所



都農町や都農町は、海が非常に近く、津波の恐れがあるので所々に海拔何メートルかを知らせる看板が立っており、高台へ避難するように書いてあった。また、都農小学校や都農東小学校、都農中学校などが主な避難場所となっており、どちらも海拔35m付近で高台に位置している。また、ハザードマップも作られていて、どこに避難するべきか分かりやすくなっている。（有馬）

⑨カーブ道



道路が大きくカーブしているため、先の見通しが悪く、運転時には速度を落として注意が必要だと感じた。周囲には自然が多く、自然豊かな都農町らしい自然環境が見られる。ガードレールや白線の整備がされており、安全性に配慮されていた。駅の通りに繋がっている道だったため、フィールドワークの終盤に坂道が待っていたのかなが疲れた。（水谷）